Online publication January 14, 2011

序　　文

大橋　俊夫[1]　　石井　壽晴[2]

2008 年度の診療報酬改定で，癌治療後の続発性四肢リンパ浮腫に対して「リンパ浮腫指導管理料」が認められ，リンパ浮腫治療のガイドライン作成やリンパ浮腫の指導技能者の養成などが喫緊の課題となり，厚生労働省を中心にそのガイドライン作成や技能者の養成プログラムの在り方が検討されているのが現状であります。第 50 回日本脈管学会総会重松　宏会長から，学会主催のシンポジウムの企画･立案の要請を受け，日本リンパ学会は，こうした時代的背景とガイドライン作成の科学的裏付けの集積などを目的として，リンパ浮腫診断と治療の最近の進歩―基礎研究から診断報酬改定まで―のシンポジウムを企画させていただきました。演者は本学会ならびに日本脈管学会の会員の先生の中で，リンパ浮腫に関係した基礎研究，リンパ浮腫の診断・治療の内科的アプローチ，外科的アプローチ，リンパ浮腫の多施設実体調査，ならびにガイドライン作成，リンパ浮腫指導者育成の将来展望などについて本邦の第一人者の方々すべてに集まっていただき，本シンポジウムを実施させていただきました。今回はご都合により 3 名の先生からは原稿を頂戴いただけませんでしたので，シンポジウムの全演題をここでご紹介させていただきました。本誌掲載論文とともにご参考にしていただければ幸甚に存じます。

1 席：流れ刺激によるリンパ管内皮細胞の ecNOS 発現の自己制御様式について
　河合佳子（信州大学　器官制御生理）
2 席：リンパ浮腫の診断～リンパ浮腫を適切に診断・評価するために～
　小川佳宏（リムズ徳島クリニック）
3 席：リンパ浮腫の外科的治療法
　光嶋　勲（東京大学　形成外科）
4 席：リンパ浮腫のさらなる治療改善をめざして
　松尾　汎（松尾クリニック）
5 席：リンパ浮腫の保存的治療
　廣田彰男（広田内科クリニック）
6 席：乳癌術後のリンパ浮腫に関する多施設実態調査と今後の課題
　北村　薫（九州中央病院　乳腺外科　リンパ浮腫センター）

[1]日本リンパ学会理事長・信州大学医学部
[2]東邦大学病理学講座